



130㎡の店舗内には食品から雑貨まで約600種類の商品が並ぶ。売れ筋商品をチョイスして仕入れ、会員でなくてもコストコ商品を購入できるとあって人気を博している。



“他店とは違う楽しみがあるお店”をモットーに、少人数の家庭でも使いやすい小分け販売や売れる・喜ばれる商品の見極め、重い商品を運ぶための台車貸し出しなど女性ならではの目線が生かされている。



「やりたいことはチャレンジせずにはいられないので、倍速人生です(笑)」と山本かおり社長。倉敷の自宅から福山まで遠距離通勤で事業の土台を築きながら3人のお子さんを育て上げ「これからは何でもできる、アイデアが溢れてくる」と目を輝かせる。「今はまだ実績を積み時期ですが、いつか大きな倉庫をもって預かった荷物を一元管理したいですね。そこが原点ですから」。

やりたいことは即行動を信条に新事業を推進

福山市の株式会社ハートロードは、社長以下、スタッフ全員が女性というユニークな運送会社。4年前に創業、2年前に法人化したばかりですが、近隣エリア内での軽貨物配送を中心に大手に頼みづらい依頼にも柔軟に、確実に、低価格で対応し、信頼を勝ち得てきました。

創業のきっかけは、社長の山本さんがかつて派遣先で経験した運送会社の倉庫内作業。「出荷指示のあった商品をいかに素早く効率的に正確に集めるかーこれを工夫するのが面白くて、フォークリフトの免許まで取得してしまいました。私ならこの倉庫やトラックにどう荷物を入れるか、どのルートで配送するかを考えるのがまた楽しくて、物流の仕事で自分でやってみたいと思うようになったんです」。

「やりたいことは即行動」が山本さんの信条。銀行から創業融資を受け運送業を開業しますが、最初の10カ月は仕事がなく資金は目減りするばかり。「なげなしのお金で配送用車両を購入し、いざ動き始めた時には一文無し。その車もすぐに壊れてしまい、波乱含みのスタートでした」とからりと笑う山本さん。数人の仲間

もつとも順風満帆に計画が進んだわけではありません。引越してほどなく新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、終息が見通せない事態に。加えて改装に着手した昨年夏には記録的な大雨で、一帯の家屋が浸水。幸いまだ床板の張り替え前でしたが、駆けつけられた時は準備していた木材が屋内にぶかぶか浮いている状態だったとか。工期は大幅に遅れ、街の賑わいもまだ戻っていない中で、船出でしたが、おふたりの表情には屈託がありません。「飲食業は未経験、しかも他所からきた私達だからこそ漕ぎつけることができたのは、竹原商工会議所をはじめ地域の方々のご助力のおかげ。今は助走期間と捉え経験を積み、しっかりと根を張り、温かく迎えてくださったこの街の魅力につながる店になることで恩返ししたいです」。

この日は偶然、初めて台湾人の観光客が来店し、おふたりは「ドキドキします」と緊張の面持ちでしたが、ハオチー(おいしい)！お代わりください！との声に破顔一笑。竹原の古い町並みと共に長く愛される店を目指し、おふたりはひたむきに、一歩一歩着実に歩みを進めています。



3台の配送用軽貨物車と広島市内のコストコでの仕入れ用冷蔵車をフル回転。スタッフが働きやすいよう仕事を配分し、家事や育児の合間に稼働するパートドライバーもいるそうだ。



4人のスタッフは率直に意見を言い合えて、足りないところはカバーしてくれる頼もしい仲間。

株式会社ハートロード

2018年に設立し、20年に法人化。福山市内や近隣エリアでの軽貨物配送のほか、昨年6月に米国生まれの会員制倉庫型ショップ「COSTLUCK」を開業し、業績を伸ばしている。

福山市引野町1-4-22
☎ 090-9461-1240



Instagram▶



明治19年に建てられた家をリノベーションした店内。元は石材店だったそう。残せるところは残し、床板を張り替え、壁は漆喰を塗り直して趣のある和モダンな空間に。テーブルは自分で製作したもの。



空間を彩る年代物の水屋箆筒とアンティークなガラス器具や什器。



「台湾の旅では地元の人が穴場の店を親切に教えて下さって、たくさんの美味に出会えました。特に感動したのが豆花(トウファ)。うちの豆花もぜひ味わっていただきたいです」と台湾愛溢れる店主の山内雅子さん。ご主人の博行さんはテキスタイルの仕事をしなが、接客やSNSでの情報発信などを引き受け全面的にサポート。

空き家バンクを活用して古民家×台湾甜品カフェを開業

安芸の小京都・竹原の町並み保存地区に今年3月、築135年の古民家をリノベーションしたカフェがオープンしました。趣のある和モダンな空間で本格的な台湾スイーツや軽食が味わえるcafé 根古屋です。

「結婚25周年の台湾旅行で食べ物の美味しさに魅了されて以来、何度も台湾へ。好きが高じて大阪の料理教室に通い覚えたレシピに、私なりの工夫も加えています」と店主の山内さん。ご主人と共に結婚以来暮らした北陸・福井から広島に移り住んだのは3年前。故郷の備後府中で暮らす高齢のお母様をサポートするための思い切った決断でした。

「福井では義父と夫が営むテキスタイルの会社を手伝っていたものの、ごく普通の主婦がお店をやるなんて思いもよりませんでした。それが広島で空き家バンクでこの古民家を見つけた一目惚れ。ここでカフェを開くのもいいね、まだ数少ない台湾スイーツの店はどう？と夫と話すうち一気に青写真ができた感じがします」。

もつとも順風満帆に計画が進んだわけではありません。引越してほどなく新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、終息が見通せない事態に。加えて改装に着手した昨年夏には記録的な大雨で、一帯の家屋が浸水。幸いまだ床板の張り替え前でしたが、駆けつけられた時は準備していた木材が屋内にぶかぶか浮いている状態だったとか。工期は大幅に遅れ、街の賑わいもまだ戻っていない中で、船出でしたが、おふたりの表情には屈託がありません。「飲食業は未経験、しかも他所からきた私達だからこそ漕ぎつけることができたのは、竹原商工会議所をはじめ地域の方々のご助力のおかげ。今は助走期間と捉え経験を積み、しっかりと根を張り、温かく迎えてくださったこの街の魅力につながる店になることで恩返ししたいです」。

この日は偶然、初めて台湾人の観光客が来店し、おふたりは「ドキドキします」と緊張の面持ちでしたが、ハオチー(おいしい)！お代わりください！との声に破顔一笑。竹原の古い町並みと共に長く愛される店を目指し、おふたりはひたむきに、一歩一歩着実に歩みを進めています。

café 根古屋

今年3月、竹原の町並み保存地区北端、照蓮寺山門前に開業。手づくりの本格的な台湾甜品(スイーツ)が早くも評判を呼んでいる。「根古屋(ねこや)」は府中市にあるご実家の屋号。築135年の古民家を引き継ぎ、この地にしっかり根を下ろしたいという気持ちが込められている。



竹原市本町4-3-46
☎ 090-2833-1938
月曜・火曜定休



Instagram▶



夫婦二人三脚でお店を切り盛り。いずれは雑貨も扱ってみたいとのこと。離れて暮らす2人のお子さんもおふたりの挑戦を応援してくれているそうだ。



豆乳を石膏で固めたものに金時豆や仙草ゼリーなどをトッピングし、シロップをかけていただく「綜合豆花」、巷で話題の「台湾カステラ」、台湾土産でお馴染みの「パイナップルケーキ」を組み合わせた欲張りな甜品セットは、ドリンク付きで1500円。全て手づくりで豆花以外はテイクアウトも可。